2005　日本心理学会第69回大会発表論文集，917.

意思決定スタイルや選択コストが感情の時間的変化に及ぼす影響

○上市　秀雄　　高橋　由直

（筑波大学大学院システム情報工学研究科，株式会社ロッテ）

key words：後悔，意思決定，個人差

目的　上市・楠見（2004）は個人差要因として意思決定スタイル（分析型:十分考えて決定する，直観型:直観的に決定する）を取り上げ，分析型の方が直観型と比較して後悔が小さいことを示した．Schwartz (2004) は，Maximization Scale によって，被験者を Maximizer と Satisficer に分類した．そして，Maximizer は何かを購入するときに商品を比較する時間が長いこと，買うことを決定するのに時間がかかること，客観的に優れた意思決定をするが最終的な満足度は Satisficer よりも少ないことを示した．しかし先行研究では以下の点が不明である．第一に様々な状況下で一貫して後悔や満足に影響を及ぼす意思決定スタイルが不明である．また満足度と意思決定スタイルとの関係は検討されていない．第二に，意思決定に関連するスタイルに関しては主に意思決定前の考え方を取り扱い（ラドフォード,1991;　Sternberg, 1997;上市・楠見,2004），意思決定後の個人の思考の傾向性の違いが後悔や満足にどのように影響するについて考慮されていない．第三に，意思決定までにかけたコストの大きさが満足度や後悔にどの程度影響を及ぼすか不明である．よって本研究では，意思決定前だけでなく意思決定後の人の考え方の個人差を考慮し意思決定スタイルを再構成する．そしてビニエット法によって後悔の生じる状況を設定し，(1)意思決定にかけたコスト，(2)意思決定スタイルが後悔や満足に及ぼす影響を検討する．

方法　*被験者*　大学生102名（男性71名，女性31名）．

材料　デジタルカメラの購入（金銭的状況），温泉旅館の予約（身体的状況），就職（人生に関する状況）の３状況．いずれも実際の価格等を参考にした．

質問紙　2004年12月に配布回収した．質問紙は状況ごとに高コスト群用(様々な属性ごとに各選択肢を逐一比較検討させて，最終的な選択をさせる．56名）と低コスト群用（属性比較はせず最終的な選択をさせる．46 名）の２種類がある．各状況において，被験者はカバーストーリーを読み，３種類の商品から一つを選択する(以後被験者が選んだ選択肢をＸとする)．そして選択肢Ｘを選んだ時点での気持ち（満足，選ばなかった選択肢に対する心残り等）を５段階評定で測定した．その後，価格（就職は給与）は同じであるが，選択肢Ｘよりもやや優れている選択肢Ｄを見つける．このときに生じた気持ち（選択肢Ｘに対する満足，後悔等）を５段階評定で測定した．そしてその後自分の選んだ選択肢Ｘが自分の期待以下だったことがわかったときの最終的な気持ち(前述と同じ）を５段階評定で測定した．以上の手続きを，デジタルカメラ，温泉旅館，就職の順でおこない，最後に意思決定スタイルを５段階評定で測定した．

意思決定スタイル　意思決定前と意思決定後のスタイルによって構成．意思決定前スタイル:完全－満足スタイル(完全型：全ての条件を満たす選択肢のみ選択する，満足型：最も重視している条件が満たされれば良い),感情スタイル(その時の感情で動く)，責任スタイル（何事も自分の責任できめる)，選択前比較スタイル（何かを決める前に選択肢を比較する),一般的比較スタイル(あれこれ比較するのが好き)．意思決定後スタイル：選択後比較スタイル（最終的な選択をした後で自分が選んだ選択肢と他の選択肢とを比較する)．

結果と考察　*選択コストが後悔，満足に及ぼす影響*　後悔ついて２(コスト:高・低)×２(時間:Ｄ出現後，Ｘ効用後)，満足について２(コスト：高・低)×３(時間：直後，Ｄ出現後，Ｘ効用後)の１between ×1 within の ANOVA をおこなった．その結果，満足に関しては，デジタルカメラ状況,温泉旅館状況，就職状況いずれも時間の主効果が有意だった（直後の満足>Ｄ出現後,Ｘ効用後の満足)．後悔に関しては，デジタルカメラ状況において時間の主効果(Ｄ出現後>Ｘ効用後)，就職状況において時間の主効果（Ｄ出現後<Ｘ効用後）が有意であった．旅館状況においては有意ではなかった．これらの結果から選択コストは後悔や満足の大きさに影響しないことがわかった．また満足度は時間とともに減少することがわかった．しかし後悔は就職のような繰り返し行動することができない状況では，上市・楠見（2004）の結果を支持し，時間とともに後悔が大きくなることがわかった．

意思決定スタイルが後悔，満足に及ぼす影響　各意思決定スタイルを平均値によって高群・低群に分類し，後悔ついて２(意思決定スタイル)×２(時間)，満足について２(意思決定スタイル)×３(時間)の ANOVA をおこなった．選択前比較スタイルが満足と後悔に及ぼす影響を検討した結果，後悔と満足ともに時間の主効果は有意だったが，選択前スタイルの主効果は有意でなかった．よって選択前比較スタイルと後悔・満足との関連はないことが示された．次に選択後比較スタイルと後悔や満足との関連性を調べた結果，満足に関しては，旅館状況と就職状況において選択後比較スタイルの主効果が認められた．これは，旅館状況と就職状況において選択後比較傾向が高い人は低い人に比べて満足の程度が小さいことを意味している．後悔に関しては，デジタルカメラ状況では，時間の主効果と選択後比較傾向の主効果，旅館状況では，選択後比較傾向の主効果，就職状況では，時間の主効果と選択後比較傾向の主効果が有意であった．この結果は，３状況全てにおいて選択後比較傾向が高い人は低い人に比べて選択した後悔が大きいことを意味している．本研究より，意思決定後傾向が行動後の感情に影響することがわかった．

まとめ　(1)選択前にかけるコストは，後悔や満足の大きさに影響しない．また満足は時間とともに小さくなる．しかし後悔は繰り返し選択可能な状況では時間経過とともに小さくなるが，繰り返しが不可能な状況では大きくなる．(2)後悔や満足は，選択前比較スタイル（分析型－直観型）ではなく，選択後比較スタイルが大きく影響することがわかった．

引用文献　ラドフォード 1991 意志決定行為，ヒューマンティワイ．Schwartz 2004 *The paradox of choice*, Ecco Press. Sternberg 1997 *Thinking styles*, Cambridge University Press. 上市・楠見 2004 後悔の時間的変化と対処方法　心理学研究,**79**(6),487-495.

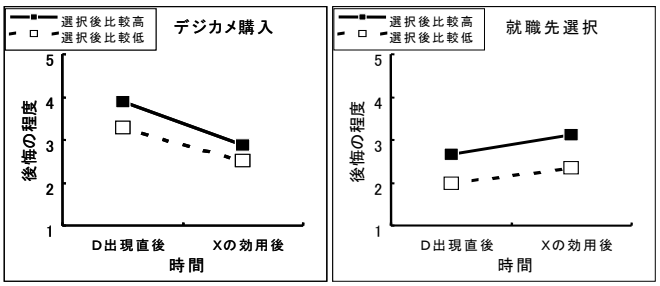

Figure 1 意思決定後スタイルと後悔との関連性

(UEICHI Hideo, TAKAHASHI Yoshinao)